

学科 学年	D 1	科目 分類	保健体育 Physical Education	実技 必修	H19 前期十 集中 2履修 単位	学習教育 目標 E	担当	佐藤 誠 SATO Makoto
概 要	生涯にわたるスポーツライフを営んでいく上で、新しい運動を自分で習得したり、集団で運動を楽しむということは重要なファクターとなる。本授業においては、運動技術の身体化という問題をマット運動を教材として取り上げ、課題技の習得・習熟をしていく中で理解していく。また、サッカーの授業を用いて、スポーツにおける戦術を学習していくにより、集団で運動を楽しむ方法を理解していく。							
科目目標 (到達目標)	マット運動では、一連の課題演技における技の獲得及び習熟度を向上を目指す。サッカーでは基本的な技能を中心としたゲームにより戦術的な理解を深める。							
教科書・器材等	テキストは特に使用しない。							
評価の基準と 方法	実技試験の成績（到達度）を60%、授業への参加率、参加態度、仲間との協力状況を40%として評価する。60点以上を合格とする。							
関連科目								
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回	×	ガイダンス						
第2回		マット運動	1. 体慣らし					
第3回			2. 基本技の練習（前転系）					
第4回			3. 基本技の練習（前転系）					
第5回			4. 基本技の練習（後転系）					
第6回			5. 基本技の練習（後転系）					
第7回			6. 基本技の練習（側方系）					
第8回			7. 組合せ技の練習					
第9回			8. 組合せ技の練習					
第10回			9. アクロバット系の練習					
第11回			10. アクロバット系の練習					
第12回			11. アクロバット系の練習					
第13回	×		12. 実技試験					
第14回			13. スポーツライフにおける安全の確保	1	(講義)			
第15回			14. スポーツライフにおける安全の確保	2	(講義)			
第16回		* 16回～30回の後期分は集中授業にて行う。						
第17回		この集中授業では、リフティング、パス、シュートなどのボールコントロールや						
第18回		ミニゲームなどを通じたサッカーの基本的戦術が学習される。						
第19回								
第20回								
第21回								
第22回								
第23回								
第24回								
第25回								
第26回								
第27回								
第28回								
第29回	×							
第30回	×							
オフィスアワー	放課後に、質問等に対応することができる。							
授業アンケートへの対応	授業内容の改善をすることにより対応する。							
備 考								
更新履歴	070131 新規							